市民ワークショップ「公共施設の未来を考えよう！」

1. 開催概要

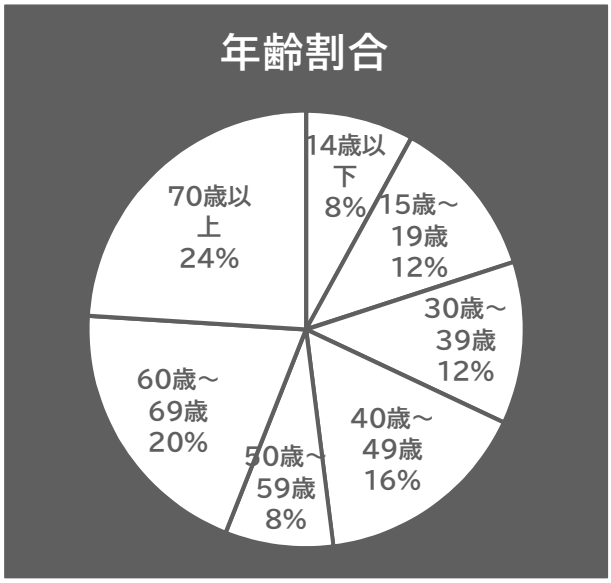
日時　　：令和 7 年 3 月 16 日(日)　13 時～15 時 40 分

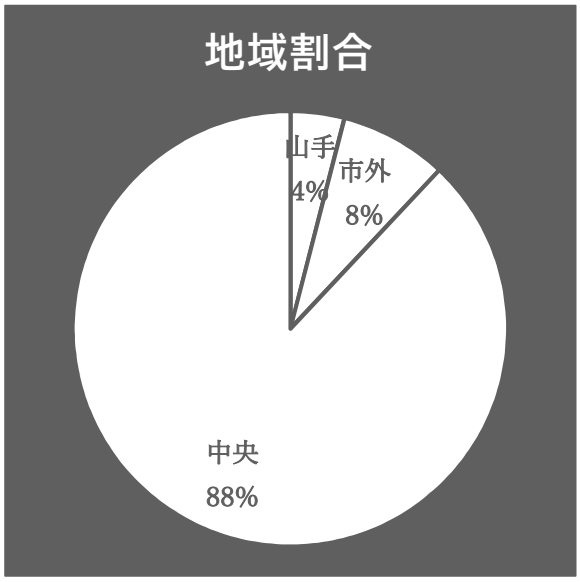
場所　　：うちぶん　大会議室

開催目的：市民に、公共施設や財政の現況をお伝えし、今後の公共施設配置の基本的な考え方に対する意見をいただき、公共施設等総合管理計画や公共施設の最適化構想の見直しの参考とする。

実施体制：市長、企画部長、市長公室長、DX 行革推進課（行革担当）

参加者：25 名





2. ワークショップの進行内容

市長あいさつ・公共施設のお話し

概要：
芦屋市の公共施設の現況を伝え、今後の人口減、少子高齢化、施設の将来更新経費の見立てに対し、取組内容を例示（施設の長寿命化・官民連携・集約化・複合化）

アイスブレイク、公共施設マネジメントゲーム（グループワーク）

概要：

少子高齢化、人口減少、財源不足に対応して、どのように施設を配置するかをシミュレーションするもの

本日の気づき（グループワーク）

特徴的な意見や気づき：

- 若い世代が中心になり、今後のまちづくりを考えた方がよいが働き盛りで難しい。参加しやすい環境づくりが大切
- こどもが少なくなれば、学校の空き教室を活用して複合化すべき
- 感染症や災害等の不測事態に備えて予算を立てておくべき
- 施設は新設すると廃止しにくくなる
- 新設・改修のタイミングでの熟考が非常に大切
- 各地域のビジョンや地域の思いに沿って、まちづくりを考えないといけない
- コスト重視で廃止・統合ではなく、芦屋のオリジナリティを考えて進めていくべき
- ゲームには無かったが、ふるさと納税などの財源を集める動きも必要
- みんなでちゃんと話をしてゲームに勝てたのがうれしかった

3. 成果と課題、今後の展開

①ワークショップを通じて得られた知見
- 年齢層に関わらず積極的に参加していただき、特に小学２年生から「民間委託をしては？」といったアイデアが出たことに驚いた
- 参加者同士が意見を否定せず、建設的な議論ができた
  ➡ 後ろ向きになりがちなテーマだが、ゲーム形式により前向きな議論ができた

②市民の理解度・認識の変化
- 「1 施設 1 機能」という考え方から複合化の必要性への理解が深まった
- 安易な施設の廃止・新設が将来に重大な影響があることへの認識が高まった
- 仮想の地域特性や芦屋市に置き換えた場合の地域特性を考慮しながら施設を具体的な配置するという検討ができていた班もあった
  ➡ 市民の感覚が行政職員に近づいてきている

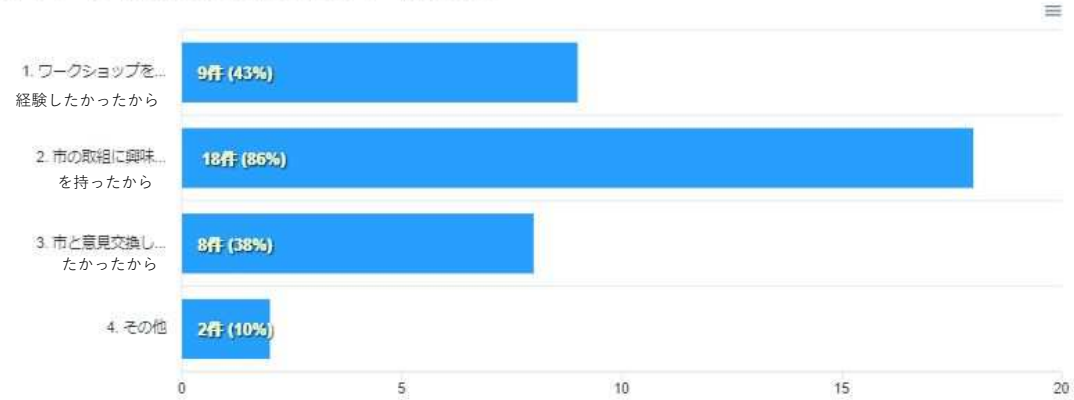
③今後の検討課題
- 無関心層の巻き込み方の検討
- 各チームの意思決定プロセスを発表する場があると議論が深まる
- 職員研修（課長級、新人研修等）への活用方法

④検討結果の活用方針
- 参加者をアンバサダーとして活用し、継続的な情報発信を行う
- 芦屋市の特性（市域の狭さ）を活かした全市的な取り組みへの発展の検討

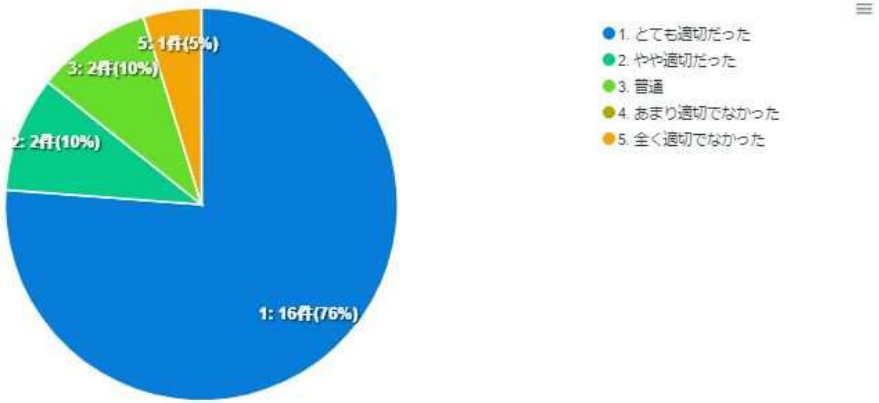
4. 参加者アンケート結果

別添のとおり

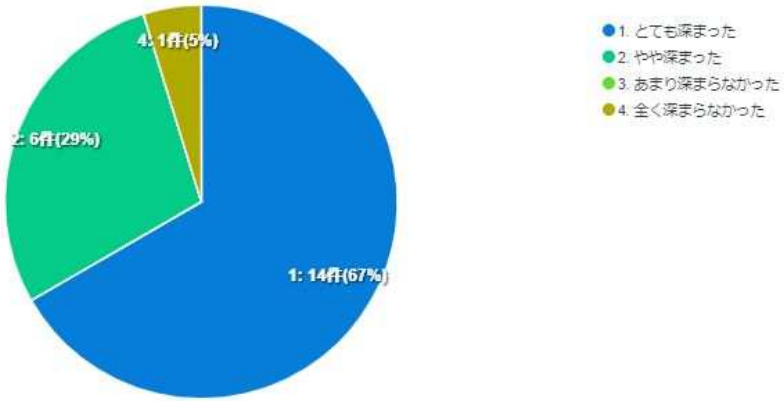
ワークショップに参加した理由を教えてください。（複数選択可）



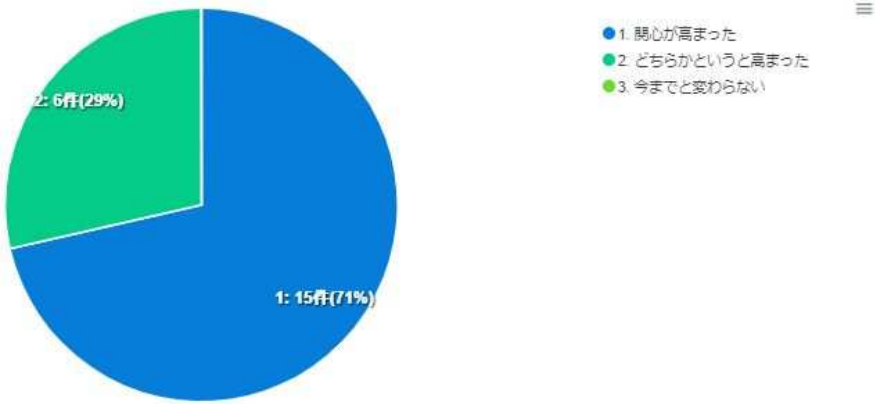
ワークショップの進行や説明は適切でしたか？



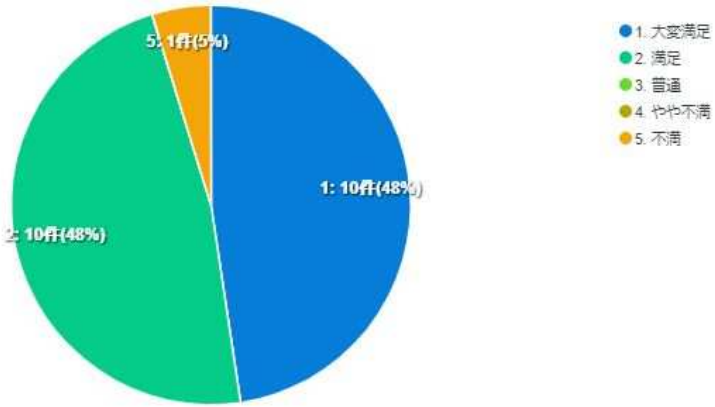
ワークショップを通じて、公共施設の現状や課題について理解が深まりましたか？



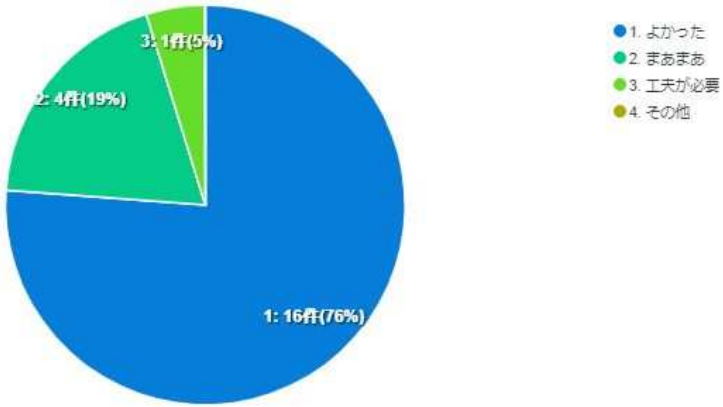
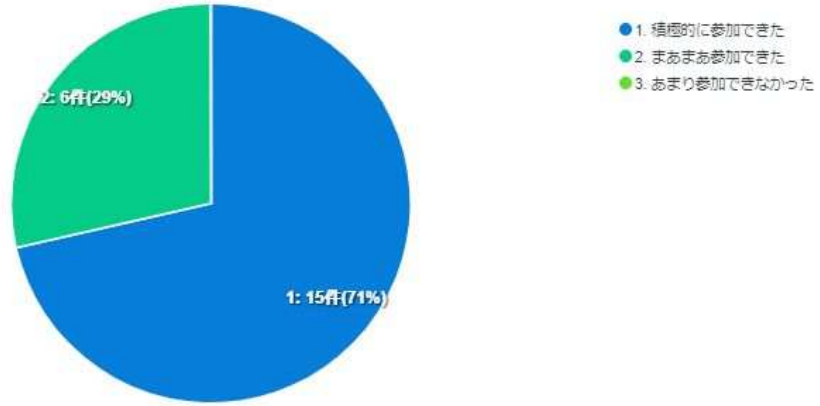
公共施設マネジメントへの関心が高まりましたか？



ワークショップ全体の満足度はどうでしたか？



「公共施設マネジメントゲーム」について[ゲーム全体の印象]



[参加状況]